

インストールガイド

Sun™ ONE Instant Messaging

Version 6.1

817-4751-10
2004 年 1 月

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、サードパーティーの開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、JDK、Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。

Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

このマニュアルについて	5
対象読者	5
前提知識	6
このマニュアルの構成	6
表記上の規則	7
モノスペースフォント	7
太字のモノスペースフォント	7
イタリックフォント	7
角かっこ	7
コマンド行プロンプト	8
関連マニュアル	8
オンラインマニュアル	9
サードパーティーの Web サイト	9
第 1 章 インストールの準備	11
製品の概要	11
インストールの概要	12
他のサーバーへの依存性	13
配備の例	15
基本的な Instant Messaging のインストール	15
電子メール通知付きの Instant Messaging	16
ID ベースサーバーのポリシー管理またはシングルサインオン付きの Instant Messaging (Solaris のみ)	16
Portal ベースのセキュアモードまたはアーカイブ付きの Instant Messaging (Solaris のみ)	17
すべての機能が有効になっている Instant Messaging (Solaris のみ)	17

第 2 章 Instant Messaging のインストールと設定	19
操作を始める前に	19
インストールチェックリストの記入	19
Instant Messaging のインストールと設定	27
以前のバージョンからの Instant Messaging の移行とアップグレード	34
アップグレード後の手順 (Linux と Windows)	41
第 3 章 Instant Messenger の設定と起動	43
Java™ Web Start の有効化	43
クライアントシステムの設定	45
Sun One Instant Messaging の起動	45
Instant Messenger を Web ブラウザから実行	45
Instant Messenger をスタンドアロンのアプリケーションとして実行	46
第 4 章 トラブルシューティング	47
UNIX システムユーザーとグループの作成 (UNIX のみ)	47
Instant Messenger リソースのロードに関する問題	48
ブラウザに im.jnlp の内容が表示される場合	48
Instant Messenger の起動またはダウンロードができない場合	49
アプレット記述子ファイルへの変更がブラウザに表示されない場合	50
第 5 章 Instant Messaging のアンインストール	51
Solaris での Instant Messenger の削除	51
Linux での Instant Messaging の削除	51
Windows での Instant Messaging の削除	53
用語集	55
索引	59

このマニュアルについて

このマニュアルでは、Sun™ Open Net Environment (Sun ONE) Instant Messaging とそれに付属しているソフトウェアコンポーネントのインストール方法について説明します。このリリースの既知の問題に関する最新の情報については、Instant Messaging のリリースノートを参照してください。

この章には、次の節があります。

- [対象読者](#)
- [前提知識](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [表記上の規則](#)
- [関連マニュアル](#)
- [オンラインマニュアル](#)
- [サードパーティーの Web サイト](#)

対象読者

このマニュアルは、Instant Messaging をサイトにインストールして配備する担当者を対象にしています。

前提知識

Sun ONE Instant Messaging をインストールする前に、次のことについて理解しておく必要があります。

- ソフトウェアをインストールするオペレーティングシステムの基本的な管理手順
- Sun Java™ Enterprise System インストーラ。『Sun Java Enterprise System Installation Guide』に説明されています。
- ユーザー作業環境の格納とユーザー認証に使用される Sun ONE Directory Server
- Sun ONE Web Server Enterprise Edition
- Instant Messaging で使用する予定のその他の Java Enterprise System 製品 (Sun ONE Identity Server、Sun ONE Portal Server、Sun ONE Messaging Server など)

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

- [このマニュアルについて \(この章\)](#)
- [第1章「インストールの準備」](#)

インストールを開始する前に理解しておく必要があるほとんどの情報について説明します。システム要件、インストールオプション、プロビジョニングオプションなどの項目を取り上げ、Instant Messaging が他の Sun ONE 製品 (Sun ONE Portal Server など) とどのように相互に運用されるかについても説明します。

- [第2章「Instant Messaging のインストールと設定」](#)

Sun ONE Instant Messaging のサーバー、マルチプレクサ、リソース、および Identity Server Instant Messaging サービスのインストールと設定の手順について詳しく説明します。

- [第3章「Instant Messenger の設定と起動」](#)

クライアントシステムの設定、Java™ Web Start の有効化、その他の地域対応のクライアントファイルの追加について説明します。クライアントの起動方法についても説明します。

- [第4章「トラブルシューティング」](#)

クライアントのトラブルシューティングについて説明します。

- [第5章「Instant Messaging のアンインストール」](#)

Sun ONE Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサの削除手順の詳細について説明します。

表記上の規則

モノスペースフォント

モノスペースフォントは、コンピュータ画面に表示されるテキストやユーザーが入力するテキストに使用されます。また、ファイル名、識別名、関数、コード例にも使用されます。

太字のモノスペースフォント

太字のモノスペースフォントは、コード例でユーザーが入力するテキストを表します。たとえば、次のようなものがあります。

```
./setup
```

この例では、**./setup** は、コマンド行から入力するテキストです。

イタリックフォント

イタリックフォントは、インストール状況に応じた固有の情報を使用して入力するテキスト(変数など)に使用されます。サーバーのパスや名前、アカウント ID などに使用されます。

次の URL では、*webserver* と *webserverport* は変数です。

```
http://webserver:webserverport
```

情報を入力するときは、イタリック体で表示されている *webserver* と *webserverport* にそれぞれ Web サーバー名と Web サーバーポートを代入します。たとえば、Web サーバー名が *i-zed* で、Web サーバーポートが *9980* である場合、入力する URL は次のようになります。

```
http://i-zed:9980
```

角かっこ

角かっこ `[]` は、オプションのパラメータを囲むために使用します。たとえば、このマニュアルでは、`setup` コマンドの使い方を次のように示します。

```
./setup [options] [argument]
```

Instant Messaging のインストールを開始する場合は、次のように `setup` コマンドを単独で実行できます。

```
./setup
```

しかし、`[options]` や `[arguments]` が指定されている場合は、`setup` コマンドに追加できるオプションのパラメータがあることを意味します。たとえば、`-nodisplay` オプションを指定して `setup` コマンドを実行すると、コマンド行からインストールを行うことができます。

```
./setup -nodisplay
```

コマンド行プロンプト

このマニュアルの各例では、コマンド行プロンプト (たとえば、C シェルの `%`、Korn または Borune シェルの `$`) が表示されていません。表示されるコマンド行プロンプトは、ご使用のオペレーティングシステム環境によって異なります。ただし、コマンドは原則として本書で示されているとおりに入力してください。

関連マニュアル

このマニュアル以外にも、Sun ONE Instant Messaging には次の補足情報が付属されています。

- Sun ONE Instant Messaging リリースノート
- Sun ONE Instant Messaging 配備ガイド
- Sun ONE Instant Messaging 管理者ガイド

Sun ONE Instant Messaging は、Sun ONE Directory Server などの他の製品と組み合わせることもできます。この製品や他の製品のマニュアルは、次の URL からオンラインで利用できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/sunone?l=ja>

オンラインマニュアル

『Sun ONE Instant Messaging インストールガイド』は、オンラインで PDF 形式と HTML 形式を参照できます。次の URL をご利用ください。

<http://docs.sun.com/db/prod?l=ja>

サードパーティーの Web サイト

Sun は、このマニュアルに記載されている Sun 以外の Web サイトの可用性については一切責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースによって利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他のデータに対して承認することも、法的責任を負うこともありません。また、そのようなサイトまたはリソースによって利用できるコンテンツ、商品、サービスへの依存またはその使用によって生じる実際または疑いのある損害や損失に対しても法的責任を負いません。

サードパーティーの Web サイト

インストールの準備

この章では、Sun ONE Instant Messaging のインストールと設定の計画について簡単に説明します。この章には、次の節が含まれます。

- [製品の概要](#)
- [インストールの概要](#)
- [他のサーバーへの依存性](#)
- [配備の例](#)

製品の概要

Instant Messaging は、次のコンポーネントで構成されます。

- Instant Messaging サーバー
- Instant Messaging マルチプレクサ

マルチプレクサは、Instant Messaging サーバーへの複数の Instant Messenger クライアントの接続を 1 つの接続に統合します。Instant Messaging マルチプレクサは、マルチプレクサとも呼ばれます。マルチプレクサを 1 つ以上インストールしておく、配備を調整するときに役立ちます。

- Sun ONE Instant Messenger リソース

リソースはファイルの集まりで、Instant Messenger クライアントを起動するためのファイル、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージやオーディオファイル、Instant Messenger のオンラインヘルプなどが含まれます。

- Instant Messenger

リソースファイルをアプレットとして実行したり、Java™ Web Start を使って実行したりする場合は、クライアントである Instant Messenger を実行します。

- Identity Server Instant Messaging サービス

Instant Messaging を Sun ONE Identity Server と組み合わせて配備すると、Instant Messaging サービスが Identity Server に追加されます。Instant Messaging サービスを使用すると、管理者は Instant Messaging にアクセスする際に Identity Server のポリシーメカニズムを適用できます。

このオプションを使用して Instant Messaging をインストールする場合は、その前に Sun ONE Identity Server をインストールしておく必要があります。

インストールの概要

Solaris で Sun ONE Instant Messaging をインストールするには、Java Enterprise System インストーラを使用します。Linux および Windows では、それらのメディアキットの CD に含まれている setup プログラムを使用します。オプションとして、次のサイトからソフトウェアをダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/software/download/>

Instant Messaging の製品とドキュメントには、インストールの実行とアップグレード、サーバーの設定、クライアントの設定などのための手順とツールが含まれています。ソフトウェアをインストールする前に、これらのインストールや設定の手順についても、本書をよくお読みください。

インストールの前に、ソフトウェアをインストールする予定のシステムが製品の最低要件を満たしているかどうか確認する必要があります。さらに、Instant Messaging のコンポーネントや配備オプションに関する一般的な知識も必要です。また、インストールプロセスを開始する前に、ソフトウェアコンポーネントをどのように配備し、設定するかを計画しておくことをお勧めします。ハードウェアやソフトウェアの要件およびサポートされているバージョンについては、『Sun ONE Instant Messaging リリースノート』を参照してください。

Instant Messaging をインストールする前に、ディレクトリサーバー、Web サーバー、およびメッセージングサーバー (オプション) をインストールする必要があります。Solaris では、Sun ONE Identity Server と Sun ONE Portal Server もインストールする必要があります (Instant Messaging でそれらのサーバーが提供する機能を使用する場合)。他のサーバーとの相互運用については、13 ページの「他のサーバーへの依存性」に説明してあります。また、15 ページの「配備の例」には Instant Messaging の各種機能を有効にする際に参考となるインストール例がいくつか紹介してあります。

他のサーバーへの依存性

配備や使用する Instant Messaging の機能に応じて、場合によっては Instant Messaging コンポーネントのほかに追加のソフトウェアをインストールする必要があります。Instant Messaging には、次の依存性があります。

- Web サーバー (必須)

Web サーバーは、Instant Messaging リソース (クライアントファイルや、クライアントとサーバーのオンラインヘルプなど) のホストとして動作します。

これらのリソースは、Web サーバーの doc ルートにインストールします。doc ルート内のリソースの格納場所によって、リソースの URL が定義されます。この URL は、コードベース (codebase) とも呼ばれます。たとえば、Web サーバー `www.example.com` がポート 89 で待機しており、この Web サーバーの doc ルートが `/opt/web/` であり、Messenger リソースを `/opt/web/im` にインストールするとします。この場合、Messenger リソースのコードベースは、`http://www.example.com:89/im/` となります。

Web サーバーのインストールと設定の手順については、Web サーバーのマニュアルを参照してください。Sun ONE Web Server Enterprise Edition のインストールと設定の方法については、次のサイトにあるマニュアルを参照してください。

`http://docs.sun.com/db/prod/s1webserv?l=ja`

Solaris で Sun ONE Portal Server を使用する場合は、Web サーバーのインストールを個別に実行する必要はありません。代わりに、Portal Server のインストール中に、Sun ONE Web Server をインストールするよう要求されます。

Sun ONE Web Server のインストール手順については、『Sun ONE Web Server インストールガイド』および『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

- LDAP ディレクトリサーバー (必須)

ディレクトリサーバーは、Instant Messaging のユーザー認証を行い、Instant Messaging によって使用される、ユーザー、グループ、および組織に関するすべての情報を含んでいます。

Instant Messaging をインストールする前に、Sun ONE Directory Server などの LDAP ディレクトリサーバーをインストールして設定しておく必要があります。Solaris で Sun ONE Identity Server を使用してユーザーを認証する場合は、ディレクトリサーバーのインストールを個別に実行する必要はありません。代わりに、Identity Server のインストール中に、Sun ONE Directory Server をインストールするよう要求されます。

Sun ONE Directory Server のインストール手順については、『Sun ONE Directory Server インストールガイド』および『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

Sun ONE Directory Server のインストールと設定の方法については、次のサイトにあるマニュアルを参照してください。

<http://docs.sun.com/prod/s1dirsrv?l=ja>

注 Solaris 9 オペレーティングシステムを使用している場合は、オペレーティングシステムに付いているディレクトリサーバーを使用できます。

- SMTP メッセージングサーバー (オプション)

メッセージングサーバーは、オフラインのユーザー用の電子メール通知を有効にするために使用します。

メッセージングサーバーは、メッセージの電子メール通知をオフラインのユーザーに送信する場合にのみインストールする必要があります。ユーザーは、オフラインのときにインスタントメッセージが指定の電子メールアドレスに送信されるように選択することができます。メッセージングサーバーは、メッセージをユーザーの電子メールアドレスに送信するために必要です。Instant Messaging 用のメッセージングサーバーを個別にインストールする必要はなく、既存のメッセージングサーバーを使用するように Instant Messaging を設定できます。

Sun ONE Messaging Server のインストールと設定の方法については、次のサイトにあるマニュアルを参照してください。

<http://docs.sun.com/prod/s1msgsrv?l=ja>

Sun ONE Messaging Server のインストール手順については、『Sun ONE Messaging Server インストールガイド』および『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

- Sun ONE Portal Server (オプション、Solaris のみ)

Portal Server を使用すると、次の機能が有効になります。

- Instant Messaging のアーカイブ
- Instant Messaging チャネル。これを使用すると、ユーザーはユーザーステータスのインジケータが付いた連絡先一覧を表示したり、他のユーザーとのチャットセッションを開設したり、Instant Messenger を起動したりすることができます。
- Portal Server の Secure Remote Access コンポーネントによる Instant Messaging への安全なアクセス

Sun ONE Portal Server のインストール手順については、『Sun ONE Portal Server インストールガイド』および『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

<http://docs.sun.com/prod/s1portalsrv?l=ja>

- Sun ONE Identity Server および Identity Server SDK (オプション、Solaris のみ)

Identity Server を使用すると、次の機能が有効になります。

- **セッション管理**：Sun ONE Identity Server の管理コンソールからセッションを監視および終了できます。
- **ポリシー管理**：それぞれのユーザー、ロール、または組織が Instant Messaging をどのように使用するかを管理できます。
- **その他の LDAP 機能**：その他のユーザー情報をファイルシステムではなく LDAP で格納できます。この中には、連絡先一覧、ユーザーステータスのアクセスロール、会議室やニュースチャンネルへの申し込みなどがあります。

シングルサインオンを使用する場合は、Identity Server をインストールする必要があります。このためには、さらに Identity Server によって使用されるディレクトリを使用するように認証を設定する必要もあります。この場合は、Instant Messaging に対して別のディレクトリサーバーをインストールするのではなく、このディレクトリを使用してください。

Identity Server をインストールする場合は、ディレクトリサーバーや Web サーバーを個別にインストールする必要はありません。代わりに、Identity Server のインストール中に、これらのサーバーをインストールするよう要求されます。

Sun ONE Identity Server のインストールと設定の方法については、次のサイトにあるマニュアルを参照してください。

<http://docs.sun.com/prod/slidsrv?l=ja>

配備の例

配備内に実装する機能に応じて、異なるサーバーをインストールする必要があります。たとえば、電子メール通知に対応させる場合は SMTP サーバーをインストールする必要がありますが、電子メール通知に対応させない場合は、SMTP サーバーは不要です。ここでは、機能セットに基づいたいくつかの配備オプションについて説明します。サポートされているソフトウェアやバージョンについては、『Sun ONE Instant Messaging リリースノート』を参照してください。Instant Messaging と相互に運用されるサーバーの詳細については、13 ページの「他のサーバーへの依存性」を参照してください。

基本的な Instant Messaging のインストール

このオプションでは、インスタントのチャット、ニュース、アラート、会議など、Instant Messaging の基本的な機能を提供します。この基本的な機能を使用するには、次のコンポーネントをインストールする必要があります。

- Instant Messaging サーバー

- Instant Messaging リソース
- Sun ONE Web Server などの Web サーバー
- Sun ONE Directory Server などの LDAP サーバー
- Instant Messaging マルチプレクサ (オプション)

電子メール通知付きの Instant Messaging

このオプションでは、[基本的な Instant Messaging のインストール](#)と同じ機能を提供しますが、そのほかにオフラインのユーザーへの電子メール通知もサポートしています。この機能を使用するには、配備内に[基本的な Instant Messaging のインストール](#)に示したサーバーのほかに、Sun ONE Messaging Server などの SMTP サーバーもインストールする必要があります。この機能を有効にするために、インストール中に Instant Messaging で使用する SMTP サーバーを特定するよう要求されます。SMTP サーバーをインストールしていない場合は、Instant Messaging ソフトウェアをインストールする前にインストールする必要があります。

ID ベースサーバーのポリシー管理またはシングルサインオン付きの Instant Messaging (Solaris のみ)

このオプションでは、[基本的な Instant Messaging のインストール](#)と同じ機能を提供しますが、そのほかに Sun ONE Identity Server のポリシー機能とシングルサインオンも利用できます。この機能を使用するには、配備内に[基本的な Instant Messaging のインストール](#)に示したサーバーのほかに、Sun ONE Identity Server もインストールする必要があります。さらに、Instant Messaging サーバーのホストに Sun ONE Identity Server SDK をインストールする必要があります。

この場合、Instant Messaging ではそのディレクトリを使ってユーザーを検索しますが、ユーザーの認証や承認は行いません。ユーザーの認証と承認は、Sun ONE Identity Server で行われます。

Portal ベースのセキュアモードまたはアーカイブ付きの Instant Messaging (Solaris のみ)

このオプションでは、[基本的な Instant Messaging のインストール](#)と同じ機能を提供しますが、そのほかにメッセージのアーカイブもサポートしており、セキュアモードで Instant Messaging を実行することもできます。この機能を使用するには、配備内に[基本的な Instant Messaging のインストール](#)に示したサーバーのほかに、Sun ONE Portal Server と Sun ONE Identity Server もインストールする必要があります。

必要に応じて、Identity Server によって使用されたディレクトリサーバーと Web サーバーを使用することもできます。その場合は、それらのサーバーのインスタンスを新たにインストールする必要はありません。

すべての機能が有効になっている Instant Messaging (Solaris のみ)

Instant Messaging をインストールし、この節で示したすべての機能を有効にすることができます。このためには、次のことを行う必要があります。

- Instant Messaging をインストールする前に、次のサーバーをインストールする必要があります。
 - Sun ONE Directory Server (Identity Server のインストール中)
 - Sun ONE Web Server (Identity Server のインストール中)
 - Sun ONE Identity Server
 - Sun ONE Portal Server
 - Sun ONE Messaging Server
- Web サーバーのホストに Instant Messaging リソースをインストールする必要があります。
- Instant Messaging サーバーのホストに Sun ONE Identity Server SDK をインストールする必要があります。
- Identity Server のホストに Identity Server Instant Messaging サービスをインストールする必要があります。

配備の例

Instant Messaging のインストールと設定

この章の次の節では、Instant Messaging のインストール、アップグレード、および移行について説明します。

- [操作を始める前に](#)
- [Instant Messaging のインストールと設定](#)
- [以前のバージョンからの Instant Messaging の移行とアップグレード](#)
- [アップグレード後の手順 \(Linux と Windows\)](#)

操作を始める前に

Instant Messaging のインストール、アップグレード、または移行を行う前に、[第1章「インストールの準備」](#)の内容について理解し、この節のインストールチェックリストを完成させる必要があります。

インストールチェックリストの記入

インストール、アップグレード、および移行中に、いくつかの基本的な設定情報を入力するよう要求されます。操作を開始する前に、この情報を収集する必要があります。収集した情報をすべて入力するか、一部だけ入力するかは、インストールするコンポーネントによって異なります。

[表 2-1](#) を印刷し、計画している配備に適した値を記入欄に書き込みます。このインストールワークシートは、Instant Messaging の複数のインストール、アンインストール、または Instant Messaging のアップグレードに再使用できます。この表には、パスワードなどの機密情報が含まれているため、この情報は安全な場所に保管してください。

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ

パラメータ	説明	回答
インストールディレクトリ	<i>instant-messaging-install-dir</i> または <i>installation directory</i>	
	Instant Messaging がインストールされるディレクトリ。	
	デフォルト:	
	Solaris: /opt/SUNWiim	
	Linux: /opt/soim	
	Windows: C:\Program Files\Sun\Instant Messaging	
Instant Messaging サーバーのホスト名とドメイン名	Instant Messaging がインストールされるホスト名とそのホストに関連付けられているドメイン名。たとえば、次のようになります。	
	ホスト名: instantmessaging.siroe.com	
	ドメイン名: siroe.com	
Instant Messaging サーバーのポート番号	Instant Messaging サーバーが Instant Messenger クライアントによって送信される以外の着信要求を待機するポート番号。	
	デフォルト: 49999	
マルチプレクサのポート番号 (マルチプレクサの設定のみ)	Instant Messaging サーバーが Instant Messenger クライアントからの着信要求を待機するポート番号。	
	デフォルト: 49909	
サーバーを無効	インストールしたインスタンスがサーバーではなくマルチプレクサとして動作する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合は、「リモート Instant Messaging サーバーのホスト名 (マルチプレクサの設定のみ)」に値を入力する必要があります。	

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ (続き)

パラメータ	説明	回答
リモート Instant Messaging サーバーのホスト名 (マルチプレクサの設定のみ)	<p>このマルチプレクサがメッセージを経路指定する Instant Messaging サーバーのホスト名。設定しているインストール済みのインスタンスがマルチプレクサではなく Instant Messaging サーバーである場合は、このパラメータに値を入力しないでください。</p> <p>依存性: 「サーバーを無効」パラメータを選択する必要があります。つまり、サーバー機能を無効にします。</p>	
Instant Messaging サービスを既存ユーザーに割り当て (Solaris のみ、オプション)	<p>このオプションを選択すると、Instant Messaging が Sun ONE Identity Server の既存のユーザーに対して有効になります。</p> <p>依存性: Sun ONE Portal Server および Sun ONE Identity Server</p>	

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ (続き)

パラメータ	説明	回答
セキュアモード (Solaris のみ、オプション)	<p>このオプションを選択すると、Sun ONE Portal Server Secure Remote Access との統合が可能になります。</p> <p>Secure Remote Access では、イントラネット内のリモートユーザーに安全なアクセスを提供します。ユーザーが Secure Remote Access を利用するには、ポータルゲートウェイを介して Web ベースの Portal Server デスクトップにログインします。</p> <p>依存性:</p> <p>Sun ONE Portal Server と Sun ONE Identity Server が必要です。</p> <p>Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access が設定されている場合にのみ、Instant Messaging をセキュアモードで実行できます。手順については、『Sun ONE Instant Messaging 管理者ガイド』および『Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access 管理者ガイド』を参照してください。</p>	
Netlet Instant Messaging ポート番号 (Solaris のみ、オプション)	<p>この機能を有効にした場合は、次のパラメータに値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Netlet Instant Messaging ポート番号 (Solaris のみ、オプション) • Messenger セキュアダウンロードポート (Solaris のみ、オプション) <p>「セキュアモード (Solaris のみ、オプション)」が有効になっている場合は、このポート番号で Netlet が着信要求を待機します。</p> <p>デフォルト: 49917</p> <p>依存性: 「セキュアモード (Solaris のみ、オプション)」が有効になっていることと、Sun ONE Portal Server および Sun ONE Identity Server</p>	

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ (続き)

パラメータ	説明	回答
Messenger セキュアダウンロードポート (Solaris のみ、オプション)	<p>「セキュアモード (Solaris のみ、オプション)」が有効になっている場合は、このポート番号から Netlet を介して Instant Messenger リソースがダウンロードされます。</p> <p>デフォルト : 49916</p> <p>依存性 : 「セキュアモード (Solaris のみ、オプション)」が有効になっていることと、Sun ONE Portal Server および Sun ONE Identity Server</p>	
Instant Messaging アーカイブを有効 (Solaris のみ、オプション)	<p>このオプションを選択すると、Sun ONE Portal Server の検索ベースのアーカイブが Instant Messaging に対して有効になります。</p> <p>依存性 : Sun ONE Portal Server および Sun ONE Identity Server</p>	
LDAP ホスト名	<p>Instant Messaging のユーザー情報やグループ情報が含まれている LDAP サーバーのホスト名。directory.siroe.com などがあります。</p> <p>依存性 : Sun ONE Directory Server などの LDAP サーバー</p>	
LDAP ポート番号	<p>ディレクトリサーバーが着信要求を待機するポート番号。389 などがあります。</p> <p>依存性 : Sun ONE Directory Server などの LDAP サーバー</p>	
ベース DN	<p>Instant Messaging のユーザー情報やグループ情報が含まれているディレクトリツリーのベース識別名。o=airius.com などがあります。</p> <p>依存性 : Sun ONE Directory Server などの LDAP サーバー</p>	

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ (続き)

パラメータ	説明	回答
バインド DN	<p>インストール中は、ディレクトリマネージャのバインド DN とバインドパスワードを使用する必要があります。この情報は、Instant Messaging と ステータスサービスのテンプレートや属性のみでディレクトリスキーマを更新する場合に使用されます。このためには、ディレクトリマネージャへのアクセスが必要です。ディレクトリマネージャのバインド DN とバインドパスワードは、インストールや初期設定以外で保存または使用されることはありません。</p> <p>サーバーの設定では、Instant Messaging はこのバインド DN を使用してディレクトリ内のユーザーやグループを検索します。ディレクトリを匿名で検索できる場合は、このパラメータを空白のままにします。</p> <p>依存性 : Sun ONE Directory Server などの LDAP サーバー</p>	
バインドパスワード	「バインド DN」のパスワード	
SMTP Server Host Name (Optional)	<p>オフラインのユーザーにメッセージの電子メール通知を送信するために使用される SMTP サーバーのホスト名。mail.siroe.com などがあります。SMTP サーバーがポート 25 を使用しない場合は、ホスト名と一緒にポートも指定してください。たとえば、SMTP サーバーがポート 1025 を使用する場合は、次のようになります。</p> <p>mail.siroe.com:1025</p> <p>依存性 : Sun ONE Messaging Server などの SMTP サーバー</p>	
データベース、ログ、実行時ファイルのパス名	<p>実行時ファイル、データベース、およびログが格納されている場所。</p> <p>デフォルト:</p> <p>Solaris: /var/opt/SUNWiim/default</p> <p>Linux: /var/opt/soim</p> <p>Windows: C:\Program Files\Sun\Instant Messaging</p>	

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ (続き)

パラメータ	説明	回答
リソースファイルとヘルプファイルのパス名	<i>instant-messaging-resource-directory</i> または <i>resource directory</i> リソースファイルやオンラインヘルプファイルがインストールされているディレクトリ。 デフォルト: Solaris: /opt/SUNWiim/html Linux: /opt/soim/html Windows: C:¥Program Files¥Sun¥Instant Messaging¥html	

表 2-1 Instant Messaging のインストールパラメータ (続き)

パラメータ	説明	回答
コードベース	<p>Instant Messenger がリソースをダウンロードする URL。</p> <p>これらのリソースは、Web サーバーの doc ルートにインストールします。たとえば、Web サーバー <code>www.example.com</code> がポート 89 で待機しており、この Web サーバーの doc ルートが <code>/opt/web/</code> であり、Messenger リソースを <code>/opt/web/im</code> にインストールするとします。この場合、Messenger リソースのコードベースは、次のようになります。</p> <p><code>http://www.example.com:89/im/</code></p> <p>インストール中に適切なコードベース (codebase) を指定しない場合は、Messenger 起動ページ <code>codebase/lang/im[ssl].html</code> と <code>codebase/lang/im[ssl].jnlp</code> を適切な URL で更新する必要があります。</p> <p>UNIX では、リソースをディレクトリにインストールし、シンボリックリンクを使用してリソースが Web サーバーで表示されるようにできます。</p> <p>たとえば、上記の例でリソースを <code>/opt/SUNWiim/html</code> にインストールした場合は、次のシンボリックリンクを作成して、Messenger リソースが Web サーバーに表示されるようにできます。</p> <pre>ln -s /opt/SUNWiim/html /opt/web/im</pre> <p>詳細については、『Sun ONE Instant Messaging 管理者ガイド』および Web サーバーのマニュアルを参照してください。</p>	

Instant Messaging のインストールと設定

Solaris で Instant Messaging をインストールする場合は、JES インストールプログラムを使用します。Linux および Windows では、それらのメディアキットのインストール CD に含まれている setup プログラムを使用します。

インストールを開始する前に、[19 ページの「操作を始める前に」](#)の手順が完了し、Instant Messaging の配備に必要な追加のサーバーのインストールや設定も完了していることを確認してください。どのサーバーをインストールする必要があるかについては、[13 ページの「他のサーバーへの依存性」](#)を参照してください。

サーバーとマルチプレクサのインストールには、同じ手順を使用します。サーバーをインストールすると、マルチプレクサもインストールされ有効になります。ホストでマルチプレクサのみをサポートする場合は、そのホストにインストールされているサーバーを無効にします。マルチプレクサは、大規模なインストールでメッセージの経路指定にかかる負荷を均衡化するために使用されます。マルチプレクサの詳細については、[第 1 章「インストールの準備」](#)を参照してください。

Web サーバーと Instant Messaging サーバーが同じホスト上にない場合は、Instant Messenger リソースを Web サーバーのホストにインストールします。

Instant Messaging のインストール手順については、次の節で詳しく説明します。

- [JES インストールプログラムを使用したインストールと設定 \(Solaris のみ\)](#)
- [グラフィカルユーザーインターフェースを使用したインストールと設定 \(Linux と Windows\)](#)
- [コマンド行からのインストールと設定 \(Linux のみ\)](#)

JES インストールプログラムを使用したインストールと設定 (Solaris のみ)

Instant Messaging のコンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

1. JES インストールプログラムを実行します。

グラフィカルユーザーインターフェースまたはコマンド行を使用してインストールできます。JES インストールプログラムの使用手順については、『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

2. インストールするコンポーネントを選択するよう要求されたら、「Instant Messaging」を展開して、インストールするコンポーネントを選択します。

- 「Instant Messaging Core Services」

このコンポーネントには、サーバーとマルチプレクサの両方のソフトウェアが含まれています。

マルチプレクサは、Instant Messenger のメッセージを複数のクライアントから Instant Messaging サーバーに経路指定します。

- 「Sun ONE Instant Messenger Resources」

リソースはファイルの集まりで、Instant Messenger クライアントを起動するためのファイル、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージやオーディオファイル、Instant Messenger のオンラインヘルプなどが含まれます。

- 「Identity Server Instant Messaging サービス」

Instant Messaging を Sun ONE Identity Server と組み合わせて配備すると、Instant Messaging サービスが Identity Server に追加されます。Instant Messaging サービスを使用すると、管理者は Instant Messaging にアクセスする際に Identity Server のポリシーメカニズムを適用できます。

このオプションを使って Instant Messaging をインストールする場合は、その前に Sun ONE Identity Server をインストールしておく必要があります。

3. 画面上の指示に従います。
4. インストールが終わったら、configure ユーティリティを使用して Instant Messaging を設定する必要があります。このためには、次の手順を実行します。
 - a. Instant Messaging をインストールしたディレクトリに移動します。

デフォルトでは、このディレクトリは /opt/SUNWiim です。

- b. `configure` ユーティリティを実行します。

グラフィカルユーザーインターフェース: `configure`

コマンド行: `configure -nodisplay`

一連のプロンプトが表示され、Instant Messaging の初期設定に必要な情報を入力するよう要求されます。表示されるプロンプトは、選択したコンポーネントによって異なります。チェックリストの値を使用して、要求された情報を入力します。詳細については、[19 ページの「インストールチェックリストの記入」](#)を参照してください。

グラフィカルユーザーインターフェースを使用したインストールと設定 (Linux と Windows)

`setup` を実行して Instant Messaging をインストールするときは、新しいソフトウェアをインストールし、初期設定情報を入力します。

Linux と Windows で、Instant Messaging のコンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。たとえば、`root` (Linux) または `administrator` (Windows) としてログインします。
2. Instant Messaging のアーカイブファイルを一時的ディレクトリに取り出します。
アーカイブファイルを Instant Messaging のインストールディレクトリに取り出さないでください。
3. アーカイブファイルを取り出したディレクトリに変更し、`./setup` (Linux) または `setup.exe` (Windows) と入力します。

注 Linux のみ: インストールプログラムをバックグラウンドで実行しないでください。

リモートマシンでインストールを行っている場合、または `root` 専用のディスプレイがない場合は、環境変数 `DISPLAY` をホスト名に設定します。たとえば、C シェルでは次のように入力します。

```
setenv DISPLAY myhost:0.0
```

インストールプログラムによって開始画面が表示されます。

4. 続行するには、「次へ」をクリックします。
「Software License Agreement」が表示されます。

5. ライセンス使用許諾契約を読んで、同意する場合は「Yes (Accept License)」をクリックし、インストールを行わないで終了する場合は「No」をクリックします。
「Software Requirements」ダイアログボックスが表示され、Instant Messaging の要件と依存性が表示されます。
6. 表示されている情報が配備の要件と一致しているかどうか、および必要なサーバーがインストールされているかどうかを確認して、「次へ」をクリックします。
適切なサーバーがインストールされていない場合は、「終了」をクリックして Instant Messaging のインストールを終了します。Instant Messaging に必要なその他のサーバーについては、13 ページの「他のサーバーへの依存性」を参照してください。
7. Instant Messaging ソフトウェアをインストールするディレクトリを選択して、「次へ」をクリックします。
デフォルトのディレクトリは、/opt/soim (Linux) と C:\Program Files\Sun\Instant Messaging (Windows) です。
「Select Components」ダイアログボックスが表示され、次のオプションが表示されます。
 - 「Sun ONE Instant Messaging Server」
このコンポーネントには、サーバーとマルチプレクサの両方のソフトウェアが含まれています。
マルチプレクサは、Instant Messenger のメッセージを複数のクライアントから Instant Messaging サーバーに送信します。
 - 「Sun ONE Instant Messenger Resources」
リソースはファイルの集まりで、Instant Messenger クライアントを起動するためのファイル、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージやオーディオファイル、Instant Messenger のオンラインヘルプなどが含まれます。
8. インストールするソフトウェアコンポーネントを選択して、「次へ」をクリックします。
「Confirm Upgrade and Addition of Components」ダイアログボックスが表示され、インストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。
9. コンポーネントの一覧を確認して、「次へ」をクリックします。
Instant Messenger リソースをインストールする場合は、「Instant Messenger Resource Directory」ダイアログボックスが表示され、インストールプログラムによってリソースファイルがインストールされる場所が表示されます。リソース用のデフォルトのディレクトリは、次のとおりです。

Linux の場合: /var/opt/soim/html

Windows の場合 : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\html

10. 「次へ」をクリックします。
インストールプログラムによって、十分なディスク領域が確保されていることが確認され、「Ready to Install」ダイアログボックスが表示されます。
11. 「Install Now」をクリックしてインストールします。
インストールプロセスが完了すると、「Installation Summary」ダイアログボックスが表示されます。
12. 「Details」をクリックして、インストールの概要を確認します。概要の確認が終わったら、「OK」をクリックして「Installation Summary」ダイアログボックスを閉じます。
13. 「次へ」をクリックして、Instant Messaging の設定を開始します。
一連のダイアログボックスが表示され、Instant Messaging の初期設定に必要な情報を入力するよう要求されます。表示されるダイアログボックスは、選択したコンポーネントによって異なります。チェックリストの値を使用して、要求された情報を入力します。詳細については、[19 ページの「インストールチェックリストの記入」](#)を参照してください。
14. 「終了」をクリックして、インストールプログラムを終了します。

コマンド行からのインストールと設定 (Linux のみ)

setup を実行して Instant Messaging をインストールするときは、新しいソフトウェアをインストールし、初期設定情報を入力します。

コマンド行から Instant Messaging のコンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

1. ローカルのターミナルウィンドウで、root としてログインします。
2. Instant Messaging のアーカイブファイルを一時ディレクトリに取り出します。
アーカイブファイルを Instant Messaging のインストールディレクトリに取り出さないでください。
3. アーカイブファイルを取り出したディレクトリに変更し、次のように入力します。
./setup -nodisplay
インストールプログラムが現在のウィンドウで実行され、コマンド行からのインストールの実行方法について説明するテキストが表示されます。
4. 続行するには、Enter キーを押します。
開始メッセージが表示されます。

5. 続行するには、**Enter** キーを押します。
前書きが表示されます。
6. **Enter** キーを押して、「**Software License Agreement**」を表示します。
7. ライセンス使用許諾契約を読み、ライセンスを承諾して続行する場合は、**Yes** (ライセンスの承諾) と入力して **Enter** キーを押します。Sun ONE Instant Messaging のインストールを行わないでインストールプログラムを終了する場合は、**No** と入力して **Enter** キーを押します。

「**Software Requirements**」画面が表示され、Instant Messaging の要件と依存性が表示されます。
8. 表示されている情報が配備の要件と一致しているかどうか、および必要なサーバーがインストールされているかどうかを確認して、**Enter** キーを押します。

適切なサーバーがインストールされていない場合は、**Exit** と入力して **Instant Messaging** のインストールを終了します。Instant Messaging に必要なその他のサーバーについては、[13 ページの「他のサーバーへの依存性」](#)を参照してください。
9. **Instant Messaging** ソフトウェアをインストールするディレクトリを選択して、**Enter** キーを押します。

デフォルトのディレクトリは、`/opt/soim` です。

「**Select Components**」画面が表示され、次のオプションが表示されます。
 - 「**Sun ONE Instant Messaging Server**」

このコンポーネントには、サーバーとマルチプレクサの両方のソフトウェアが含まれています。

マルチプレクサは、Instant Messenger のメッセージを複数のクライアントから Instant Messaging サーバーに経路指定します。
 - 「**Sun ONE Instant Messenger Resources**」

リソースはファイルの集まりで、Instant Messenger クライアントを起動するためのファイル、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージやオーディオファイル、Instant Messenger のオンラインヘルプなどが含まれます。
10. インストールするソフトウェアコンポーネントを選択して、**Enter** キーを押します。

「**Confirm Upgrade and Addition of Components**」画面が表示され、インストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。
11. コンポーネントの一覧を確認して、**Enter** キーを押します。

Sun ONE Instant Messenger リソースをインストールしている場合は、「Instant Messenger Resource Directory」画面が表示され、インストールプログラムによってリソースファイルがインストールされる場所が表示されます。リソース用のデフォルトのディレクトリは、`/var/opt/soim/html` です。

12. デフォルトのディレクトリを受け入れるか、別のディレクトリを入力して、Enter キーを押します。

インストールプログラムによって、十分なディスク領域が確保されていることが確認され、「Ready to Install」画面が表示されます。

13. Enter キーを押して、インストールを開始します。

インストールプロセスが完了すると、「Installation Summary」画面が表示されます。

14. Enter キーを押して、Instant Messaging の設定を開始します。

一連のプロンプトが表示され、Instant Messaging の初期設定に必要な情報を入力するよう要求されます。表示されるプロンプトは、選択したコンポーネントによって異なります。チェックリストの値を使用して、要求された情報を入力します。詳細については、19 ページの「インストールチェックリストの記入」を参照してください。

15. Exit と入力して、インストールプログラムを終了します。

以前のバージョンからの Instant Messaging の移行とアップグレード

Instant Messaging を以前のバージョンからアップグレードすることができますが、アップグレードの方法は使用するプラットフォームによって異なります。Solaris では、新たにインストールを行ってから、既存のデータを移行します。Linux と Windows では、前のバージョンの Instant Messaging の上に直接アップグレードすることができます。

Instant Messaging を移行またはアップグレードするには、次の手順を実行する必要があります。

1. Instant Messaging ソフトウェアを入手します。
2. Instant Messaging サーバーをシャットダウンする時刻を決めます。
3. その時刻より前に、シャットダウンが予定されていることをユーザーに通知します。
4. データベースと既存のリソース、およびカスタマイズした設定ファイルをバックアップします。この中には、*DB*、*installation*、*resource* の各ディレクトリのファイルも含まれます。これらのディレクトリのデフォルトの場所は、次のとおりです。

Solaris	DB ディレクトリ : /var/opt/SUNWiim/default/db インストールディレクトリ : /opt/SUNWiim リソースディレクトリ : /var/opt/SUNWiim/html
Linux	DB ディレクトリ : /var/opt/soim/db インストールディレクトリ : /opt/soim リソースディレクトリ : /var/opt/soim/html
Windows	DB ディレクトリ : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\db インストールディレクトリ : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging リソースディレクトリ : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\html

5. (Solaris のみ) Instant Messaging をアンインストールしてから、アンインストール中に削除されなかったディレクトリとセキュリティパッケージ (NSRP や NSS など) をすべて削除します。アンインストール手順については、『Sun Java Enterprise System Installation Guide』を参照してください。

6. 19 ページの「インストールチェックリストの記入」のチェックリストが完成しているかどうか確認します。この情報は、アップグレードの後で Instant Messaging を設定するときに必要なとなります。
7. 以前に IM Portal チャンネルや Portal アーカイブをインストールした場合は、Instant Messaging をアップグレードする前にそれらを削除する必要があります。
8. その他の必要なサーバーがすべてインストールされ設定されているかどうか確認します。

詳細については、13 ページの「他のサーバーへの依存性」を参照してください。

9. Instant Messaging サーバーとすべてのマルチプレクサをシャットダウンします。
10. アップグレードまたは移行を行います。
具体的には、新しいソフトウェアをインストールして、Instant Messaging を設定します。
11. アップグレード後の手順を実行します。

Solaris: データを移行します。36 ページの「Instant Messaging の移行 (Solaris のみ)」を参照してください。

Linux と Windows: アップグレード中に、setup プログラムによって .new ファイルが config および html の各ディレクトリに作成されます。これらのファイルには、このバージョンに追加された変更内容がすべて含まれています。たとえば、既存の iim.conf ファイルをカスタマイズした場合は、インストーラによって iim.conf.new ファイルが作成されます。アップグレード後に、この変更内容をカスタマイズしたファイルにマージする必要があります。36 ページの「Instant Messaging のアップグレード (Linux と Windows)」を参照してください。

移行とアップグレードの詳細については、次の節を参照してください。

- [Instant Messaging の移行 \(Solaris のみ\)](#)
- [Instant Messaging のアップグレード \(Linux と Windows\)](#)

Instant Messaging の移行 (Solaris のみ)

このリリースの Instant Messaging をアップグレードするには、現在のインストールをバックアップし、JES インストールプログラムを使用して新たにインストールを行ってから、既存のデータをバックアップから新しいインストールへ移行する必要があります。

データを新しいバージョンの Instant Messaging へ移行するには、インストールを完了した後で、次のディレクトリをバックアップから新しいインストールディレクトリへコピーします。

- データベースディレクトリ
- デフォルトでは、このディレクトリは `/var/opt/SUNWiim/default/db` です。
- サーバー設定ファイルディレクトリ
デフォルトでは、このディレクトリは `/etc/opt/SUNWiim` です。
- カスタマイズされた Messenger リソースファイル
`/opt/SUNWiim/html` 内のカスタマイズしたすべてのファイルが含まれます。

Instant Messaging のアップグレード (Linux と Windows)

Linux では、`setup` プログラムのグラフィカルユーザーインターフェイス、またはコマンド行インターフェイスを使用して Instant Messaging をアップグレードすることができます。Windows では、グラフィカルユーザーインターフェイスを使用して Instant Messaging をアップグレードする必要があります。

アップグレードについては、次の節を参照してください。

- [グラフィカルユーザーインターフェイスを使用した Instant Messaging のアップグレード \(Linux と Windows\)](#)
- [コマンド行からのアップグレード \(Linux のみ\)](#)

グラフィカルユーザーインターフェイスを使用した Instant Messaging のアップグレード (Linux と Windows)

`setup` を実行して既存のインストールをアップグレードする場合は、新しいソフトウェアをインストールし、Instant Messaging の初期設定情報を入力します。

Instant Messaging のサーバー、マルチプレクサ、およびリソースをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。たとえば、root (Linux) または administrator (Windows) としてログインします。
2. Instant Messaging サーバーとマルチプレクサをシャットダウンします。
Linux: `imadmin stop`
Windows: 「コントロールパネル」の「サービス」からサーバーを停止します。
3. Instant Messaging のアーカイブファイルを一時的ディレクトリに取り出します。
アーカイブファイルを Instant Messaging のインストールディレクトリに取り出さないでください。
4. アーカイブファイルを取り出したディレクトリに変更し、`./setup` (Linux) または `setup.exe` (Windows) と入力します。

注 Linux のみ: インストールプログラムをバックグラウンドで実行しないでください。

リモートマシンでインストールを行っている場合、または root 専用のディスプレイがない場合は、環境変数 `DISPLAY` をホスト名に設定します。たとえば、C シェルでは次のように入力します。

```
setenv DISPLAY myhost:0.0
```

インストールプログラムによって開始のダイアログボックスが表示されます。

5. 続行するには、「次へ」をクリックします。
「Software License Agreement」が表示されます。
6. ライセンス使用許諾契約を読んで、同意する場合は「Yes (Accept License)」をクリックし、アップグレードを行わないで終了する場合は「No」をクリックします。
「Software Requirements」ダイアログボックスが表示され、Instant Messaging の要件と依存性が表示されます。
7. 表示されている情報が配備の要件と一致しているかどうか、および必要なサーバーがインストールされているかどうかを確認して、「次へ」をクリックします。
適切なサーバーがインストールされていない場合は、「終了」をクリックして Instant Messaging のインストールを終了します。Instant Messaging に必要なその他のサーバーについては、13 ページの「他のサーバーへの依存性」を参照してください。
「Select Components」ダイアログボックスが表示され、次のオプションが表示されます。

○ 「Sun ONE Instant Messaging Server」

このコンポーネントには、サーバーとマルチプレクサの両方のソフトウェアが含まれています。

マルチプレクサは、Instant Messenger のメッセージを複数のクライアントから Instant Messaging サーバーに経路指定します。

○ 「Sun ONE Instant Messenger Resources」

リソースはファイルの集まりで、Instant Messenger クライアントを起動するためのファイル、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージやオーディオファイル、Instant Messenger のオンラインヘルプなどが含まれます。

インストールプログラムによって、システムにすでにインストールされているコンポーネントが自動的に選択されます。バージョンが同じかそれ以降のコンポーネントがすでにシステムにインストールされている場合、そのコンポーネントは無効として一覧に表示されます。

8. アップグレードするその他のソフトウェアコンポーネントを選択して、「次へ」をクリックします。

「Confirm Upgrade and Addition of Components」ダイアログボックスが表示され、アップグレードされるコンポーネントの一覧が表示されます。

9. コンポーネントの一覧を確認して、「次へ」をクリックします。

リソースをアップグレードする場合は、「Instant Messenger Resource Directory」ダイアログボックスが表示され、setup プログラムによってリソースファイルがインストールされる場所が表示されます。Messenger のリソース用のデフォルトのディレクトリは、次のとおりです。

Linux の場合：`/var/opt/soim/html`

Windows の場合：`C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\html`

10. 「次へ」をクリックします。

setup プログラムによって、十分なディスク領域が確保されていることが確認され、「Ready to Install」ダイアログボックスが表示されます。

11. 「Install Now」をクリックします。

アップグレードプロセスが完了すると、「Installation Summary」ダイアログボックスが表示されます。

12. 「Details」をクリックして、アップグレードの概要を確認します。概要の確認が終わったら、「OK」をクリックして「Installation Summary」ダイアログボックスを閉じます。

13. 「次へ」をクリックして、Instant Messaging の設定を開始します。

一連のダイアログボックスが表示され、Instant Messaging の初期設定に必要な情報を入力するよう要求されます。表示されるダイアログボックスは、37 ページの [手順 7](#) で選択したコンポーネントによって異なります。チェックリストの値を使用して、要求された情報を入力します。詳細については、19 ページの「[インストールチェックリストの記入](#)」を参照してください。

14. 「終了」をクリックして、setup プログラムを終了します。

以前のインストールのバックアップを作成し、そのバックアップからデータベースやカスタマイズしたファイルを復元する場合は、41 ページの「[アップグレード後の手順 \(Linux と Windows\)](#)」を参照してください。

コマンド行からのアップグレード (Linux のみ)

setup を実行して既存のインストールをアップグレードする場合は、新しいソフトウェアをインストールし、Instant Messaging の初期設定情報を入力します。

Instant Messaging のサーバー、マルチプレクサ、およびリソースをコマンド行からアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. ローカルのターミナルウィンドウで、root としてログインします。
2. Instant Messaging のアーカイブファイルを一時ディレクトリに取り出します。
アーカイブファイルを Instant Messaging のインストールディレクトリに取り出さないでください。
3. アーカイブファイルを取り出したディレクトリに変更し、次のように入力します。
./setup -nodisplay
setup プログラムが現在のウィンドウで実行され、コマンド行からのインストールの実行方法について説明するテキストが表示されます。
4. 続行するには、Enter キーを押します。
開始メッセージが表示されます。
5. 続行するには、Enter キーを押します。
前書きが表示されます。
6. Enter キーを押して、「Software License Agreement」を表示します。
7. ライセンス使用許諾契約を読み、ライセンスを承諾して続行する場合は、Yes (ライセンスの承諾) と入力して Enter キーを押します。アップグレードを行わないで setup プログラムを終了する場合は、No と入力して Enter キーを押します。
「Software Requirements」画面が表示され、Instant Messaging の要件と依存性が表示されます。
8. 表示されている情報が配備の要件と一致しているかどうか、および必要なサーバーがインストールされているかどうかを確認して、Enter キーを押します。

適切なサーバーがインストールされていない場合は、Exit と入力して setup プログラムを終了します。Instant Messaging に必要なその他のサーバーについては、13 ページの「他のサーバーへの依存性」を参照してください。

「Select Components」画面が表示され、次のオプションが表示されます。

○ 「Sun ONE Instant Messaging Server」

このコンポーネントには、サーバーとマルチプレクサの両方のソフトウェアが含まれています。

マルチプレクサは、Instant Messenger のメッセージを複数のクライアントから Instant Messaging サーバーに経路指定します。

○ 「Sun ONE Instant Messenger Resources」

リソースはファイルの集まりで、Instant Messenger クライアントを起動するためのファイル、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージやオーディオファイル、Instant Messenger のオンラインヘルプなどが含まれます。

インストールプログラムによって、システムにすでにインストールされているコンポーネントが自動的に選択されます。バージョンが同じかそれ以降のコンポーネントがすでにシステムにインストールされている場合、そのコンポーネントは無効として一覧に表示されます。

9. アップグレードするその他のソフトウェアコンポーネントを選択して、Enter キーを押します。

「Confirm Upgrade and Addition of Components」画面が表示され、アップグレードされるコンポーネントの一覧が表示されます。

10. コンポーネントの一覧を確認して、Enter キーを押します。

Sun ONE Instant Messenger リソースをアップグレードしている場合は、「Instant Messenger Resource Directory」画面が表示され、setup プログラムによってリソースファイルがインストールされる場所が表示されます。Instant Messenger のリソース用のデフォルトのディレクトリは、/var/opt/soim/html です。

11. Enter キーを押します。

setup プログラムによって、十分なディスク領域が確保されていることが確認され、「Ready to Install」画面が表示されます。

12. Enter キーを押します。

アップグレードプロセスによってソフトウェアのインストールが完了すると、「Installation Summary」画面が表示されます。

13. Enter キーを押して、Instant Messaging の設定を開始します。

一連のプロンプトが表示され、Instant Messaging の初期設定に必要な情報を入力するよう要求されます。表示されるプロンプトは、[39 ページの手順 8](#) で選択したコンポーネントによって異なります。チェックリストの値を使用して、要求された情報を入力します。詳細については、[19 ページの「インストールチェックリストの記入」](#)を参照してください。

14. Instant Messaging のアップグレードと設定が完了したら、Exit と入力して setup プログラムを終了します。

以前のインストールのバックアップを作成し、そのバックアップからデータベースやカスタマイズしたファイルを復元する場合は、[41 ページの「アップグレード後の手順 \(Linux と Windows\)」](#)を参照してください。

アップグレード後の手順 (Linux と Windows)

作成したバックアップからデータベースを復元するには、バックアップした DB ディレクトリとそのすべての内容を新しい DB ディレクトリにコピーします。デフォルトでは、アップグレード中に作成した DB ディレクトリは次の場所にインストールされます。

Linux: /var/opt/soim/db

Windows: C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\db

アップグレード中に、setup プログラムによって .new ファイルが config および html の各ディレクトリに作成されます。これらのファイルには、このバージョンに追加された変更内容がすべて含まれています。たとえば、既存の iim.conf ファイルをカスタマイズした場合は、インストーラによって iim.conf.new ファイルが作成されます。

新しいバージョンにアップグレードした後は、.new ファイルを見つけて、変更内容を既存のファイルにマージする必要があります。追加した変更内容を保存しない場合は、古いファイルを削除し、対応する .new ファイルの名前を変更します。

変更内容をマージするときは、古いファイルを .new ファイルと 1 行ずつ照合し、変更内容が反映されるように既存のファイルを編集します。

[表 2-2](#) に、カスタマイズできるファイルの一覧を示します。アップグレード中に、これらのファイルの .new ファイルが作成されます。

表 2-2 .new ファイル

ファイルの種類	Linux	Windows
設定	<i>installation</i> <i>directory/default/config/iim.conf</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥iim.conf</i>
	<i>installation</i> <i>directory/default/config/acls/sysAdmin.acl</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥acls¥sysAdmin.acl</i>
	<i>installation</i> <i>directory/default/config/acls/sysTopicsAdd.acl</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥acls¥sysTopicsAdd.acl</i>
	<i>installation</i> <i>directory/default/config/acls/sysRoomsAdd.acl</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥acls¥sysRoomsAdd.acl</i>
	<i>installation</i> <i>directory/default/config/acls/sysRoomsAdd.acl</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥acls¥sysSendAlerts.acl</i>
	<i>installation</i> <i>directory/default/config/acls/sysSendAlerts.acl</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥acls¥sysWatch.acl</i>
	<i>installation</i> <i>directory/acls/sysWatch.acl</i>	<i>installation</i> <i>directory¥config¥acls¥sysSaveUserSettings.acl</i>
	<i>installation</i> <i>directory/default/config/acls/sysSaveUserSettings.acl</i>	
リソース	<i>resource</i> <i>directory/im.html</i>	<i>resource</i> <i>directory¥im.html</i>
	<i>resource</i> <i>directory/im.jnlp</i>	<i>resource</i> <i>directory¥im.jnlp</i>
	<i>resource</i> <i>directory/index.html</i>	<i>resource</i> <i>directory¥index.html</i>
	<i>resource</i> <i>directory/language/imres.jnlp</i>	<i>resource</i> <i>directory¥language¥imres.jnlp</i>
	<i>resource</i> <i>directory/language/imbrand.jar</i>	<i>resource</i> <i>directory¥language¥imbrand.jar</i>
	<i>resource</i> <i>directory/imssl.jnlp</i>	<i>resource</i> <i>directory¥imssl.jnlp</i>
	<i>resource</i> <i>directory/imssl.html</i>	<i>resource</i> <i>directory¥imssl.html</i>

Linux の場合、*installation directory* のデフォルト値は /opt/soim/config であり、*resource directory* のデフォルト値は /opt/soim/html です。

Windows の場合、*installation directory* のデフォルト値は c:¥Program Files¥Sun¥InstantMessaging であり、*resource directory* のデフォルト値は c:¥Program Files¥Sun¥InstantMessaging¥html です。

Instant Messenger の設定と起動

この章の次の節では、Instant Messenger に対応するように Web サーバーとクライアントシステムを設定する方法について説明します。

- [Java™ Web Start の有効化](#)
- [クライアントシステムの設定](#)
- [Sun One Instant Messaging の起動](#)

Java™ Web Start の有効化

Java Web Start で Instant Messenger を使用するには、このソフトウェアをインストールし、Java Web Start を操作できるように Web サーバーを設定する必要があります。Java Web Start のインストール手順については、次のサイトを参照してください。

<http://java.sun.com/products/javawebstart>

Web サーバーで Java Web Start を使用できるようにするには、Web サーバーの mime.types ファイルを編集して、次の JNLP の定義を追加する必要があります。

コンテンツタイプ: application/x-java-jnlp-file

サフィックス: jnlp

Sun ONE Web Server Enterprise Edition の場合

MIME タイプを Sun ONE Web Server に追加するには、次の手順を実行します。

1. 次の URL を入力して、ブラウザで管理サーバーにアクセスします。

http://hostname.domain-name:administration_port

たとえば、次のように入力します。 <http://budgie.siroe.com:8888>

Sun ONE Web Server によって、ユーザー名とパスワードの入力を要求するウィンドウが表示されます。

2. Web サーバーのインストール時に指定した管理ユーザー名とパスワードを入力します。

Web サーバーによって Administration Server ページが表示されます。

3. 「Manage Servers」 ページで、「Manage」 をクリックします。

Web サーバーによって 「Server Manager」 ページが表示されます。

4. 「MIME Types」 リンクをクリックします。
5. 「MIME file」 ドロップダウンリストから、編集する MIME タイプを選択し、「OK」 をクリックします。
6. 「Global MIME Types」 ページで、「Category」 ドロップダウンリストから 「type」 を選択します。
7. 「Content-Type」 テキストボックスで、次のように入力します。
`application/x-java-jnlp-file`
8. 「File Suffix」 テキストボックスで、次のように入力します。
`jnlp`
9. 「New Type」 をクリックして、MIME タイプを作成します。
10. この変更内容を反映させるために Web サーバーを再起動します。

Apache Web Server の場合

次の行を mime.types ファイルに追加します。

```
application/x-java-jnlp-file jnlp
```

デフォルトでは、このファイルは Apache Web Server の設定ディレクトリにあります。

クライアントシステムの設定

クライアントマシンに適切なバージョンの Java がインストールされている場合は、Java プラグインまたは Java Web Start を使用するための特別な要件はありません。Netscape Navigator バージョン7と最新バージョンの Mozilla ブラウザには、最新バージョンの Java が含まれていますが、Internet Explorer には含まれていません。各バージョンの要件については、『Sun ONE Instant Messaging リリースノート』を参照してください。

クライアントマシンに必要なバージョンの Java がインストールされていない場合は、Java Web Start をインストールする必要があります。Java は、次のサイトからダウンロードしてインストールできます。

<http://www.java.sun.com/j2se>

Java Web Start は、次のサイトからダウンロードしてインストールできます。

<http://www.java.sun.com/products/javawebstart>

Sun One Instant Messaging の起動

ここでは、Instant Messenger (Instant Messaging クライアントアプリケーション) を起動する手順について説明します。

Instant Messenger は、次の節で説明するように、Web ブラウザ内でアプレットとして実行することも、スタンドアロンのアプリケーションとして実行することもできます。

- [Instant Messenger を Web ブラウザから実行](#)
- [Instant Messenger をスタンドアロンのアプリケーションとして実行](#)

Instant Messenger を Web ブラウザから実行

Web ブラウザ内でアプレットとして Instant Messenger を実行するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを起動します。

サポートされているブラウザについては、『Sun ONE Instant Messaging リリースノート』を参照してください。

2. Sun ONE Instant Messaging のホームページに進みます。デフォルトでは、このホームページは、index.html という名前で格納されています。次の形式を使用して、Instant Messaging のホームページを検索します。

`http://codebase/index.html`

ここでの *codebase* は、Web サーバーのリソースファイルの場所に相当する URL です。

3. 「Java Plug-In を利用します」をクリックします。

このホームページをカスタマイズし、リンクテキストを変更した場合は、Instant Messenger をブラウザ内でアプレットとして実行する操作に相当するリンクをクリックします。リンクは、`im.jnlp` (標準) または `imssl.jnlp` (セキュアモード) を指しています。

Instant Messenger をスタンドアロンのアプリケーションとして実行

Instant Messenger をスタンドアロンのアプリケーションとして実行するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを起動します。

サポートされているブラウザについては、『Sun ONE Instant Messaging リリースノート』を参照してください。

2. Sun ONE Instant Messaging のホームページに進みます。デフォルトでは、このホームページは、`index.html` という名前で格納されています。次の形式を使用して、Instant Messaging のホームページを検索します。

`http://codebase/index.html`

ここでの *codebase* は、Web サーバーのリソースファイルの場所に相当する URL です。

3. 「Java Web Start を利用します」をクリックします。

このホームページをカスタマイズし、リンクテキストを変更した場合は、Java™ Web Start を使用して Instant Messenger を実行する操作に相当するリンクをクリックします。リンクは、`im.html` (標準) または `imssl.html` (セキュアモード) を指しています。

Java プラグインを使用して Instant Messenger セッションを確立する場合は、ブラウザのウィンドウがそのセッション専用でなければなりません。

このブラウザウィンドウを使用して他の URL に移動したり、Instant Messenger セッションを終了しないでブラウザウィンドウを閉じたりしないでください。

リソースページのカスタマイズ方法については、『Sun ONE Instant Messaging 管理者ガイド』を参照してください。

トラブルシューティング

この章の次の節では、Instant Messaging と Instant Messenger のトラブルシューティングについて説明します。

- UNIX システムユーザーとグループの作成 (UNIX のみ)
- Instant Messenger リソースのロードに関する問題
- ブラウザに `im.jnlp` の内容が表示される場合
- Instant Messenger の起動またはダウンロードができない場合
- アプレット記述子ファイルへの変更がブラウザに表示されない場合

UNIX システムユーザーとグループの作成 (UNIX のみ)

システムユーザーは、特定のサーバプロセスを実行します。これらのユーザーには、それらのプロセスを実行できるよう特定の権限を割り当てる必要があります。通常は、インストールプロセスによって次のユーザーとグループが作成されます。

- ユーザー: `inetuser`
- グループ: `inetgroup`

インストールプロセスによって Instant Messaging の UNIX ユーザーとグループが作成されない場合は、この節の手順に従って、それらを手動で作成する必要があります。Instant Messaging のユーザーとグループを作成した後で、そのユーザーが所有するディレクトリとファイルに適した権限を設定する必要があります。

適切な UNIX ユーザーとグループを作成するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. システムユーザーが所属するグループを作成します。たとえば、Solaris で `imserv` というグループを作成するには、次のように入力します。

```
# groupadd imgroup
```

3. システムユーザーを作成し、作成したグループにそれを関連付けます。さらに、そのユーザーのパスワードを設定します。たとえば、Solaris で `imuser` というユーザーを作成し、グループ `imserver` に関連付けるには、次のように入力します。

```
# useradd -g imgroup imserver
```

ユーザーとグループの追加方法については、ご使用のオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

4. ユーザーとグループが `/etc/groups` ファイルに追加されていることを確認します。

Instant Messenger リソースのロードに関する問題

ネットワーク環境では、クライアントのホストとインターネットとの間にファイアウォールがある場合や、Java™ Web Start が正しいプロキシ設定で構成されていない場合、Instant Messaging リソースのロード中に問題が発生することがあります。

Java Web Start では、システムまたはデフォルトのブラウザに、プロキシ設定について自動的に問い合わせます。ただし、JavaScript™ ファイルを使用してプロキシ設定が行われている場合は、Java Web Start で問い合わせることはできません。代わりに、Java Web Start のアプリケーションマネージャの「設定」パネルを使用して、プロキシを手動で設定する必要があります。アプリケーションマネージャの使用方法については、Java Web Start の `readme` ファイルを参照してください。readme ファイルは、次のサイトからオンラインで利用できます。

<http://java.sun.com/products/javawebstart>

ブラウザに im.jnlp の内容が表示される場合

Java Web Start が起動されずに、ブラウザに `im.jnlp` ファイルの内容が表示された場合は、Web サーバーの `mime.types` ファイルを編集して JNLP を定義する行を追加する必要があります。この行を追加する手順については、[43 ページの「Java™ Web Start の有効化」](#)を参照してください。

Instant Messenger の起動またはダウンロードができない場合

場合によっては、クライアントシステム上の JAR ファイルのキャッシュが壊れている可能性があります。この問題が発生した場合は、Instant Messenger を起動することも、新しいバージョンをダウンロードすることもできません。UNIX でこの問題を修正するには、Java Web Start のキャッシュをクリアする必要があります。Windows では、次の節の手順に従って、Java Web Start のキャッシュと Java プラグインのキャッシュをクリアする必要があります。

- UNIX のキャッシュから Sun ONE Instant Messenger を削除するには
- Windows のキャッシュから Sun ONE Instant Messenger を削除するには
- Windows の Java プラグインのキャッシュから Sun ONE Instant Messenger を削除するには

UNIX のキャッシュから Sun ONE Instant Messenger を削除するには

1. Java Web Start アプリケーションマネージャを起動します。

アプリケーションマネージャの使用方法については、Java Web Start の readme ファイルを参照してください。readme ファイルは、次のサイトからオンラインで利用できます。

<http://java.sun.com/products/javawebstart>

2. 「アプリケーション」メニューから、「アプリケーションの削除」を選択します。
3. アプリケーションマネージャを閉じます。

Windows のキャッシュから Sun ONE Instant Messenger を削除するには

1. Java Web Start アプリケーション (JWS) マネージャを起動します。

アプリケーションマネージャの使用方法については、Java Web Start の readme ファイルを参照してください。readme ファイルは、次のサイトからオンラインで利用できます。

<http://java.sun.com/products/javawebstart>

2. 「表示」メニューから「ダウンロード済みアプリケーション」を選択します。

アプリケーションマネージャによって、ダウンロードされたアプリケーションが表示されます。

3. 「Sun ONE Instant Messenger」を選択します。
4. 「アプリケーション」メニューから「アプリケーションの削除」を選択します。
5. アプリケーションマネージャを閉じます。

Windows の Java プラグインのキャッシュから Sun ONE Instant Messenger を削除するには

1. 「コントロールパネル」の「Java Plug-in」をダブルクリックします。
「Java Plug-in コントロールパネル」が表示されます。
2. 「Java Plug-in コントロールパネル」の「キャッシュ」タブをクリックします。
3. 「クリア」ボタンをクリックします。

アプレット記述子ファイルへの変更がブラウザに表示されない場合

Web ブラウザのキャッシュは、アプレット記述子ファイルに頻繁にアクセスします。このため、アプレット記述子ファイルへの変更が必ずしもすぐに反映されるとは限りません。この問題が発生した場合は、ブラウザのメモリキャッシュをクリアする必要があります。

キャッシュをクリアする手順については、ご使用のブラウザのマニュアルを参照してください。

Instant Messaging のアンインストール

この章では、Instant Messaging のコンポーネントの削除手順の詳細について説明します。次の節で、UNIX と Windows の場合の削除手順について説明します。

- [Solaris での Instant Messenger の削除](#)
- [Linux での Instant Messaging の削除](#)
- [Windows での Instant Messaging の削除](#)

Solaris での Instant Messenger の削除

Solaris でのアンインストールには、Java Enterprise System のアンインストーラを使用します。手順については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

Linux での Instant Messaging の削除

Instant Messaging を削除するには、次の手順を実行します。

1. (オプション) Sun ONE Instant Messaging データのコピーが必要な場合は、データベースとすべての既存のリソース、およびカスタマイズした設定ファイルをバックアップします。この中には、*DB*、*installation*、*resource* の各ディレクトリのファイルも含まれます。これらのディレクトリのデフォルトの場所は、次のとおりです。

Linux	DB ディレクトリ : /var/opt/soim/db
	インストールディレクトリ : /opt/soim
	リソースディレクトリ : /var/opt/soim/html

- ローカルのターミナルウィンドウで、**Instant Messaging** をインストールしたディレクトリに変更します。

- コマンド行で、次のように入力します。

```
./uninstall
```

アンインストールプログラムをコマンド行スクリプトとして実行する場合は、次のように入力します。

```
./uninstall -nodisplay
```

開始パネルが表示されます。

- 続行するには、「次へ」をクリックします。

「Select Type of Uninstallation」パネルが表示されます。

完全なアンインストールまたは部分的なアンインストールを選択します。完全なアンインストールでは、すべてのコンポーネントが削除されます。部分的なアンインストールでは、**Instant Messaging** のコンポーネントを1つだけアンインストールすることも、すべてのコンポーネントをアンインストールすることもできます。

- 続行するには、「次へ」をクリックします。

(Solaris のみ) 完全なアンインストールを選択した場合、または **Identity Server Instant Messaging** サービスをアンインストールする場合は、「Instant Messaging Server LDAP Configuration」パネルが表示されます。

次に示す LDAP サーバーの詳細を入力します。

- 「LDAP Host Name」: LDAP サーバーが実行されているマシンのホスト名。デフォルトは、完全指定のホスト名です。directory.siroe.com などがあります。
- 「LDAP Port Number」: LDAP サーバーが着信要求を待機するポート番号。デフォルトは 389 です。
- 「Base DN」: 「Base DN」(識別名) は、ユーザーやグループを検索するときの開始ポイントとして使用される LDAP ディレクトリのエントリです。o=i-zed.com などがあります。
- 「Bind DN」: Directory Manager の識別名。
- 「Bind Password」: Directory Manager のパスワード。

- 続行するには、「次へ」をクリックします。

「Ready to Uninstall」パネルが表示されます。

- 「Uninstall Now」をクリックして、アンインストールを実行します。

「Uninstalling」パネルにアンインストールの進行状況が表示されます。アンインストールが完了すると、「Uninstallation Summary」パネルが表示されます。

8. (オプション) アンインストールの詳細を表示するには、「Details」をクリックします。「Uninstallation Summary」パネルに戻るには、「Dismiss」をクリックします。
9. 「終了」をクリックして、アンインストール手順を終了します。

注 アンインストールスクリプトでは、製品と一緒にインストールされた Java Runtime Environment は削除されません。

Windows での Instant Messaging の削除

Instant Messaging をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. (オプション) Instant Messaging サーバーのデータを保存する場合は、次のファイルとディレクトリをバックアップします。
DB ディレクトリ : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\db
インストールディレクトリ : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging
リソースディレクトリ : C:\Program Files\Sun\Instant Messaging\html
2. 「スタート」メニューから、「設定」、「コントロールパネル」の順に選択します。
3. 「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
4. 「インストールと削除」タブをクリックします。
5. 製品の一覧から、「Sun ONE Instant Messaging」を選択し、「追加と削除」をクリックします。
6. その製品をアンインストールするには、「はい」をクリックします。
7. 完全なアンインストールまたは部分的なアンインストールを選択します。完全なアンインストールでは、すべてのコンポーネントが削除されます。部分的なアンインストールでは、コンポーネントを1つだけアンインストールすることも、すべてのコンポーネントをアンインストールすることもできます。
8. 「Uninstall Now」をクリックして、製品のアンインストールを続行します。
9. (オプション) アンインストールの詳細を表示するには、「詳細」をクリックします。「Uninstallation Summary」パネルに戻るには、「Dismiss」をクリックします。
10. 「終了」をクリックして、アンインストールを終了します。

用語集

CA 認証局。メッセージの暗号化と復号化のためにセキュリティ資格情報と公開鍵を発行して管理するネットワーク上の機関。公開鍵インフラストラクチャ (PKI) の一部として、CA ではデジタル証明書の要求側が提示する情報を検証するために登録局 (RA) に確認を取る。RA が要求側の情報を確認すると、CA によって証明書が発行される。

cn 共通名を表す LDAP の別名。

DN 識別名。

dn 識別名を表す LDAP の別名。

DNS ドメインネームシステム。コンピュータが UNIX ネットワークまたはインターネット上の他のコンピュータをドメイン名で検索できるようにする分散名前解決ソフトウェア。DNS サーバーには、ホスト名をインターネットアドレスに変換するための分散した複製データ照会サービスが備わっている。

HTTP Hyper Text Transfer Protocol。Web を介してハイパーテキスト文書を転送できるようにする標準プロトコル。Instant Messaging サーバーでは、HTTP を使用して、サーバー自身と Instant Messenger クライアントとの間のデータフローに対応しています。

Instant Messenger ユーザーがインスタントメッセージとアラートを送受信できるようにする Instant Messaging クライアント。

Instant Messaging サーバー Instant Messaging マルチプレクサを介して Instant Messenger クライアントから送られてくる着信コマンドを処理する、製品に含まれているバックエンドのサーバープロセス。また、LDAP サーバーと通信して Instant Messaging ユーザーの認証も行う。「Instant Messaging マルチプレクサ」も参照。

Instant Messaging マルチプレクサ バックエンドの Instant Messaging サーバーへの接続が少なく済むように多数の並列クライアント接続を可能にすることにより、Instant Messaging サーバーのスケーラビリティを向上させる。Instant Messenger クライアントは、Instant Messaging サーバーではなく、マルチプレクサに接続します。ファイアウォールのパブリック側にマルチプレクサをインストールすると、ユーザーのデータベースを侵入プログラムから保護して、Instant Messaging サーバーをファイアウォールの背後に隠しておくことができます。

Java Web Start Web アプリケーション起動ツール。Java Web Start を使用すると、ハイパーテキストリンクをクリックすることによってアプリケーションが起動する。アプリケーションが使用中のコンピュータにない場合は、Java Web Start によって自動的にダウンロードされ、コンピュータのキャッシュに保存される。アプリケーションがダウンロードされると、デスクトップ上のアイコンまたはリンクから起動できる。どの方法でアプリケーションを起動しても、最新バージョンのアプリケーションが常に実行される。

Java アプレット Java で書かれた小さなプログラムで、Web ページに付けてユーザーのブラウザに送信することができる。Java アプレットは、ユーザーの要求をサーバーに返信しなくてもタスクを実行できる。Instant Messenger クライアントは Java アプレットである。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol。LDAP は、ディレクトリ情報の保存、検索、および配信に使用されるプロトコルである。

LDAP サーバー LDAP ディレクトリを管理し、そのディレクトリへの照会を処理するソフトウェアサーバー。Sun Directory Services と Netscape Directory Services には、LDAP サーバーが実装されている。

sn 姓を表す LDAP の別名。

SSL Secure Sockets Layer。SSL は、クライアントとサーバーとの認証および暗号化された通信用の、公開されたセキュリティプロトコルである。Instant Messaging は、server-to-server SSL に対応しています。

Sun ONE Portal Server リモートユーザーがインターネット経由で所属する組織のネットワークおよびそのサービスに安全にアクセスできるようにするソフトウェア製品。さらに、従業員、ビジネスパートナー、一般の人々など、対象となる利用者に、コンテンツ、アプリケーション、およびデータへのアクセスを提供する、安全なインターネットポータルを作成できる。

アラート ポップアップメッセージとしてユーザーの連絡先がただちに受け取る通知。「メッセージステータスを表示」オプションが選択されている場合にメッセージが読まれると、送信者に通知される。

会議室 あらかじめ用意されたチャットルームであり、管理者または sysRoomsAdd 権限を持つユーザーによって開設され、会議室を表示および利用できるユーザーも決められる。

サーバープロセス オペレーティングシステムによって設定される、必要な機能を備えた自己完結型実行環境。アプリケーションの各インスタンスは通常、独立したプロセスで実行される。

サービス Windows NT サービスマネージャの下で実行される Windows NT プログラム。起動時に自動的に実行される。Windows のデフォルトのインストールには、いくつかのサービスが設定されている。DHCP クライアントなどがその一例である。Instant Messaging サーバーのインストールツールでは、Sun ONE Connection Multiplexor と Sun ONE Instant Messaging サーバーという 2 つの Windows サービスが設定される。

識別名 カンマで区切られた一連の属性と値で、ディレクトリ情報ツリー内のエントリの一意の場所を指定する。DN と省略されることもある。

証明書 Instant Messaging サーバーを識別するために使用される電子文書であり、公開鍵が関連付けられている。Sun ONE Instant Messaging では、Instant Messaging サーバー間で証明書を交換することができる。交換される証明書は、個々のユーザーには見えない。

ステータスイベント ユーザーがオンラインであるかどうかなどのユーザーのステータス。

チャット Instant Messaging サーバー版のインスタントメッセージング。チャットはリアルタイムの対話機能で、ユーザーはこれを利用してプロジェクトを遂行したり、顧客の質問に答えたり、即時性が要求されるその他の業務をこなしたりすることができる。チャットは、必要に応じて作成されたチャットルーム、またはあらかじめ用意された会議室で行う。

調査 Instant Messenger で調査機能を使用すると、質問に対する回答についてユーザーに問い合わせることができる。選択したユーザーに質問と選択式の回答を送信し、ユーザーは回答を選択して応答する。

ディレクトリサービス 論理的に集中管理された情報リポジトリ。Instant Messaging サーバーは、ユーザー認証をディレクトリサービスに依存している。「LDAP」も参照。

ニュースチャンネル ニュースチャンネルは、情報を投稿し、共有するためのフォーラムである。ユーザーは、興味のあるニュースチャンネルに加入し、最新情報を受け取る。通常、ニュースチャンネルの情報は URL によって自動的に、または適切な権限を持ったユーザーによって公開される。管理者は、ユーザーに必要なニュースチャンネルを割り当てることにより、またニュースチャンネルの情報を表示または投稿できるユーザーを決定することにより、ニュースチャンネルへのアクセスを制御できる。

ニュースチャンネル一覧 現在加入しているすべてのニュースチャンネルが表示されるウィンドウ。各ニュースチャンネルは、別々のタブに表示される。

認証 ユーザーの資格情報を検証する処理。プライベートおよびパブリックなコンピュータネットワーク (インターネットを含む) では、一般にログイン ID とパスワードを使用して認証が行われる。パスワードを認識していることは、ユーザーが認証されることを保証するものとする。

バディ 「連絡先」を参照。

ファイアウォール セキュリティ上の特別な予防策を備えた専用のゲートウェイマシンであり、ネットワーク (特にインターネット) 接続やダイヤルイン回線の外側での処理に使用される。ファイアウォールの内側に存在する比較的管理の緩いマシンのグループをファイアウォールの外側からの不要なアクセスから保護する。

プラグイン Web ページ内のコンテンツを表示または実行するために、ブラウザのコードを拡張したもの。プラグインを使用すると、ブラウザがこれまで表示できなかったページ内のコンテンツの要素をブラウザで表示できるようになる。

連携サーバー 使用しているサーバーと相互に通信を行うサーバー。各連携サーバーには、記号名 (英字と数字から成る文字列) が指定される。たとえば、coservn (n は数値)。

連絡先 ユーザーがインスタントメッセージの送受信を行うときに使用する LDAP ユーザーまたはグループ。他のインスタントメッセージング環境では「バディ」とも呼ばれる。

連絡先一覧 Instant Messenger に含まれているユーザーのすべての連絡先グループの一覧。

連絡先グループ ユーザーが管理する連絡先の一覧。実際のリストは、Instant Messaging サーバーに格納される。

ユーザー ID ユーザーの識別番号。システムにアクセスしているユーザーを識別する固有の文字列。

索引

B

Base DN

Windows の LDAP ディレクトリ , 52

I

「Instant Messaging サーバーのドメイン名」パラメータ , 20

「Instant Messaging サーバーのポート番号」パラメータ , 20

「Instant Messaging サーバーのホスト名」パラメータ , 20

「Instant Messaging サービスを既存ユーザーに割り当て」パラメータ , 21

「Instant Messaging マルチプレクサのポート番号」パラメータ , 20

J

JNLP MIME タイプ

Solaris, 43

L

LDAP

Windows の base DN, 52

Linux

サーバーのアンインストール , 51

M

MIME タイプファイル

Solaris, 43

トラブルシューティングのヒント , 48

N

「Netlet Instant Messaging ポート番号」パラメータ , 22

S

Solaris

コマンド行からのアップグレード , 39

コマンド行からのインストール , 31

サーバーのアンインストール , 51

通常カスタマイズされるファイル , 34, 51

U

UNIX

- コマンド行からのアップグレード, 39
- コマンド行からのインストール, 31

W

Windows

- サーバーのアンインストール, 53

あ

アンインストール

- Linux でのサーバーのアンインストール方法, 51
- Solaris でのサーバーのアンインストール方法, 51
- Windows でのサーバーのアンインストール方法, 53

い

インストール

- 概要, 15
- 「インストールディレクトリ」パラメータ, 20

こ

コマンド行からのアップグレード

- Solaris, 39
- UNIX, 39

コマンド行からのインストール

- Solaris, 31
- UNIX, 31

さ

サーバー

- マルチプレクサとして有効にする, 20
- サーバーのインストールの概要, 15
- 「サーバーを無効」パラメータ, 20

せ

- 「セキュアモード」パラメータ, 22

設定

- マルチプレクサ, 20

つ

通常カスタマイズされるファイル

- Solaris, 34, 51

と

トラブルシューティング

- MIME タイプファイル, 48
- プロキシ設定, 48

は

パラメータ

- Instant Messaging サーバーのドメイン名, 20
- Instant Messaging サーバーのポート番号, 20
- Instant Messaging サーバーのホスト名, 20
- Instant Messaging サービスを既存ユーザーに割り当て, 21
- Instant Messaging マルチプレクサのポート番号, 20
- Netlet Instant Messaging ポート番号, 22
- インストールディレクトリ, 20
- サーバーを無効, 20

セキュアモード, 22

リモート Instant Messaging サーバーノホストメ
イ, 21

ふ

プロキシ設定、トラブルシューティング, 48

ほ

ポート番号
サーバー, 20

ま

マルチプレクサ
設定, 20

マルチプレクサのポート番号
ポート番号
マルチプレクサ, 20

り

「リモート Instant Messaging サーバーのホスト名」
パラメータ, 21

